

山 岳 遭 難 発 生 状 況

(令和7年1月1日～令和7年6月29日)
地域部 山岳安全対策課

1 山岳遭難発生状況（暫定値）（令和6年数値は1月1日からの同期間数値）

区 分	発生件数	死 者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
令 和 7 年	127	26	4	59	60	149
令 和 6 年	108	21	0	45	56	122
前 年 同 期 比	19	5	4	14	4	27

2 山域別発生状況

区 分		件 数	件数比率	死 者	行方不明	負 傷 者	無事救出	遭難者計
北 ア	槍穂高	18	14.2%	5	0	9	6	20
	後立山	25	19.7%	5	1	10	21	37
	その他	24	18.9%	0	0	17	10	27
計		67	52.8%	10	1	36	37	84
中央アルプス		9	7.1%	3	1	3	3	10
南アルプス		2	1.6%	0	1	1	0	2
八ヶ岳連峰		16	12.6%	3	0	9	5	17
その他の山岳		33	26.0%	10	1	10	15	36
計		127		26	4	59	60	149

3 態様別発生状況

区 分	件 数	件数比率	死 者	行方不明	負 傷 者	無事救出	遭難者計
転・滑落	45	35.4%	15	0	32	0	47
転 倒	23	18.1%	1	0	22	0	23
病 気	5	3.9%	2	0	0	3	5
道 迷 い	20	15.7%	0	0	0	32	32
落 石	1	0.8%	0	0	1	0	1
雪 崩	2	1.6%	1	0	1	1	3
落 雷	0	0.0%	0	0	0	0	0
疲労凍死傷	6	4.7%	0	0	0	7	7
不明・他	25	19.7%	7	4	3	17	31
計	127		26	4	59	60	149

4 男女別・年齢別比率

区 分	男 性					(人) 比率	女 性					(人) 比率	男女計	
	死者	不明	負傷	無事	計		死者	不明	負傷	無事	計		人数	比率
19歳以下	0	0	0	3	3	28 25.5%	0	0	0	0	0	9 23.1%	3	37 24.8%
20代	1	0	2	10	13		0	0	1	4	5		18	
30代	3	1	3	5	12		0	0	2	2	4		16	
40代	4	1	8	4	17	43 39.1%	1	0	5	2	8	19 48.7%	25	62 41.6%
50代	6	0	9	11	26		0	0	8	3	11		37	
60代	5	1	8	9	23	39 35.5%	0	0	6	1	7	11 28.2%	30	50 33.6%
70以上	6	1	4	5	16		0	0	3	1	4		20	
計	25	4	34	47	110		1	0	25	13	39		149	
比 率	73.8%						26.2%							

(※ 比率の計は、小数点の調整上、一致しない場合あり。)

先週の発生（6/23～6/29）

日付	場所	性別	年齢	死傷別	態様	概要
6月28日	ハケ岳連峰 硫黄岳	男	64	無事救出	疲労	単独で硫黄岳に向けて登山中、疲労により、行動不能
6月28日	ハケ岳連峰 東天狗岳	女	74	負傷	転倒	単独で東天狗岳から下山中、転倒、負傷
6月28日	北アルプス 赤岩岳	男	49	無事救出	その他	2人パーティで槍ヶ岳から赤岩岳に向けて縦走中、技量不足により、行動不能
6月29日	北アルプス 常念岳	男	21	負傷	転倒	11人パーティで常念岳から蝶ヶ岳に向けて縦走中、転倒、負傷
6月29日	北アルプス 燕岳	女	64	無事救出	その他	単独で大天井岳から燕岳におけて縦走中、技量不足により行動不能

山岳安全対策課からのアドバイス

先週県内では、5件の山岳遭難が発生しました。
今週から7月に入り、本格的な夏山シーズンとなります。

長野県内の山は、夏休みを利用し、多くの登山者が訪れる一方で、多くの山岳遭難も発生し、昨シーズンは、7月・8月の2ヶ月間で**116件**の山岳遭難が発生、遭難者は死者**15人**、行方不明者**1人**、負傷者**53人**、無事救助**56人**の計**125人**でした。

長野県内では、例年夏山シーズンに山岳遭難が多く発生し、特に暑い日差しを浴びながらの行動となるため、疲労等による行動不能の遭難が多く発生しています。

疲労による遭難は、綿密な事前準備、登山計画や日々のトレーニングによって防ぐことができます。夏山に向けて登山計画をしている方は、

- ・自身の体力・技術に見合った山域選び
- ・余裕ある登山計画を立てる
- ・登山に向けたトレーニングを行う

ことを実践し、安全登山を心掛けましょう。